

第18回日本水環境学会シンポジウム（平成27年9月14～16日，信州大学（長野市））

ノンポイント汚染研究委員会 セッション

『閉鎖性水域の水質改善のための非特定汚染源負荷量の再評価を目指して』

日時： 平成27年9月15日（火，2日目） 9時00分～12時30分

会場： B会場（信州大学長野（工学）キャンパス 100教室）

<座長：駒井幸雄（大阪工大）>

09:05～ 非特定汚染源対策の推進に係るガイドライン（第二版）について

○柳田貴広（環境省水・大気環境局）

09:25～ 印旛沼・手賀沼の湖沼水質保全計画における面源負荷原単位の現状と課題について

○藤村葉子（千葉県・環研セ）

09:45～ 霞ヶ浦流域における原単位に係る課題と調査について

○神谷航一（茨城県・霞環科セ），吉尾卓宏（茨城県・農総セ），大内孝雄（茨城県・霞環科セ），
相崎守弘（茨城県・霞環科セ）

10:05～ 琵琶湖流域における面源負荷原単位とモデル利活用の考え方について

○佐藤祐一（滋賀県・琵琶湖科研セ）

<座長：山田俊郎（岐阜大）>

10:40～ 閉鎖性水域における面源負荷原単位の算出根拠および算出方法

○増田貴則（鳥取大）

11:00～ 閉鎖性水域へのシリカインプットの重要性と地表面状態の違いを考慮した森林からの原単位推定

○原田茂樹（宮城大），橋本泰佑（宮城大），佐藤泰介（山形県庁），白石琢磨（国土交通省）

11:20～ 水路底質の堆積と剥離が水田流域からの年間負荷流出に及ぼす影響

○武田育郎（島根大）

11:40～ 面源負荷の定量的把握の課題と今後の面源負荷対策の方向性

○大久保卓也（滋賀県大）

<座長：古米弘明（東京大）>

12:00 ～ 12:30 総合討論